

Ⅱ 業種別産業の動向

1 農 林 業

(1) 農林業の現況

◆ 概要

都市農業は、農業就業人口の減少と高齢化、担い手不足、兼業化の進行、経営規模の縮小、都市化の進展による生産環境の悪化等、種々の問題を抱えている。更に、コメの生産調整や輸入農産物の急増等も加わり、都市農業を取り巻く環境は厳しさを増している。

また、近年は、化学肥料や農薬への依存を減らし、消費者ニーズに対応したより安全で良質な農産物の生産を行う環境保全型農業の確立が望まれるなど、転換期を迎えている。

林業についても、自給率の低下と木材価格の低迷、労働力の減少と高齢化や、放置森林の増加等多数の問題を抱える中、森林の持つ多面的機能の維持増進を図るため、林業の活性化を通じた森林の健全な育成が課題となっている。

また、社会経済情勢の変化に伴い、豊かさやゆとりのある生活を求めて、農林業の体験希望者が増え、土や自然との触れ合いを求める市民が増加しており、農地等の多様な機能を生かした新しい農林業を市民と一体となって展開していくことが必要になっている。

◆ 農業の現況

京都市においては、古く都であったこと、大都市近郊という地の利、地味の良さ等から多くの農産物が生産され、伝統的に活発な農業が行われている。

しかし、農地と宅地の混在化、経営規模の零細化等、都市農業を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しており、より高度な技術の普及、消費者ニーズに合う新しい品目や分野の開拓、経営コストの低減等を進める必要がある。

このような課題に対処するため、本市では施設の近代化、土地基盤整備事業、市内産品の消費啓発等を実施している。

◆ 林業の現況

京都市の林業を取り巻く環境は、長期的な国産材需要や木材価格の低迷により、森林所有者の施業意欲の低下、林業就業者の減少、高齢化など、厳しい状況にある。そうした状況の下で、北山磨丸太に代表される高度で繊細な技術に支えられた林業生産活動が行われているほか、森林の持つ多様な機能を活用した林業地域の活性化が推進されている。一方、7割以上を占める広大な森林資源をまちづくりに生かすため、木材需要拡大や供給体制の整備のほか、平成17年4月の京北町との合併により、本市が引き継いだ約268haの広大な山林については、自然環境を生かすとともに、広く市民が活用でき、京北地域はもとより本市全体の発展につながるような方策や、市民や企業等の参画による森づくりなど、総合的な取組が今後の大きな課題となっている。

(2) 農 業

◆ 農業の状況

平成19年度京都市農林統計資料によると、農家戸数は7,295戸で、うち専業農家が956戸（構成比13.1%）、農業を主とする兼業農家が1,243戸（同17.0%）、農業を従とする兼業農家が5,096戸（同69.9%）となっている〔表Ⅱ-1-2-1、図Ⅱ-1-2-1〕。

農家人口は31,762人で、男女別に見ると男性14,966人、女性16,796人となっている〔表Ⅱ-1-2-2、図Ⅱ-1-2-2〕。

耕地面積は3,278.9haで、田が2,477.4haと全体の75.6%を占めている〔表Ⅱ-1-2-3、図Ⅱ-1-2-3〕。

前年に比べわずかながら、農家戸数、農家人口、及び、耕地面積は減少している。

表Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移

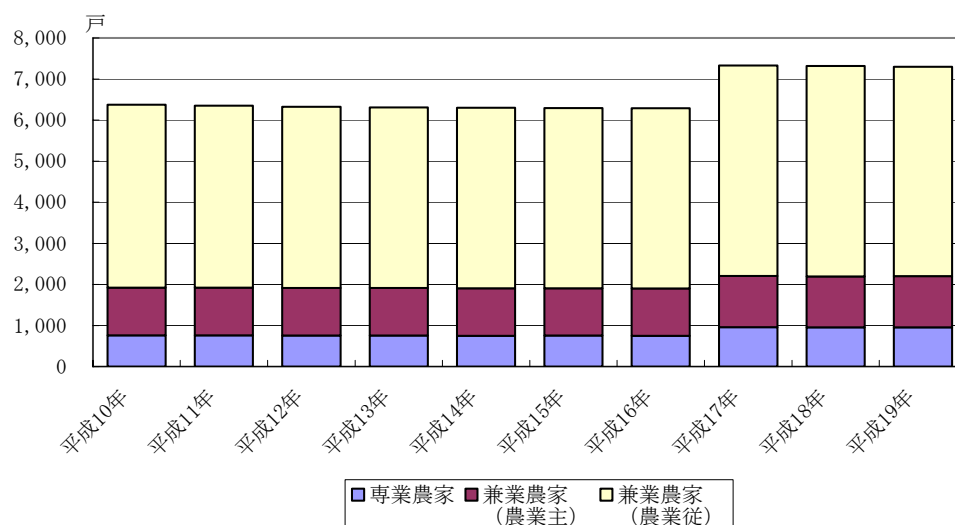
（単位：戸）

	専 業 農 家	兼 業 農 家 （ 農 業 主 ）	兼 業 農 家 （ 農 業 従 ）	総 農 家 戸 数
平 成 10 年	759	1,161	4,454	6,374
平 成 11 年	760	1,161	4,426	6,347
平 成 12 年	757	1,158	4,407	6,322
平 成 13 年	757	1,155	4,391	6,303
平 成 14 年	750	1,155	4,392	6,297
平 成 15 年	751	1,154	4,388	6,293
平 成 16 年	750	1,152	4,383	6,285
平 成 17 年	960	1,244	5,125	7,329
平 成 18 年	954	1,242	5,117	7,313
平 成 19 年	956	1,243	5,096	7,295

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移

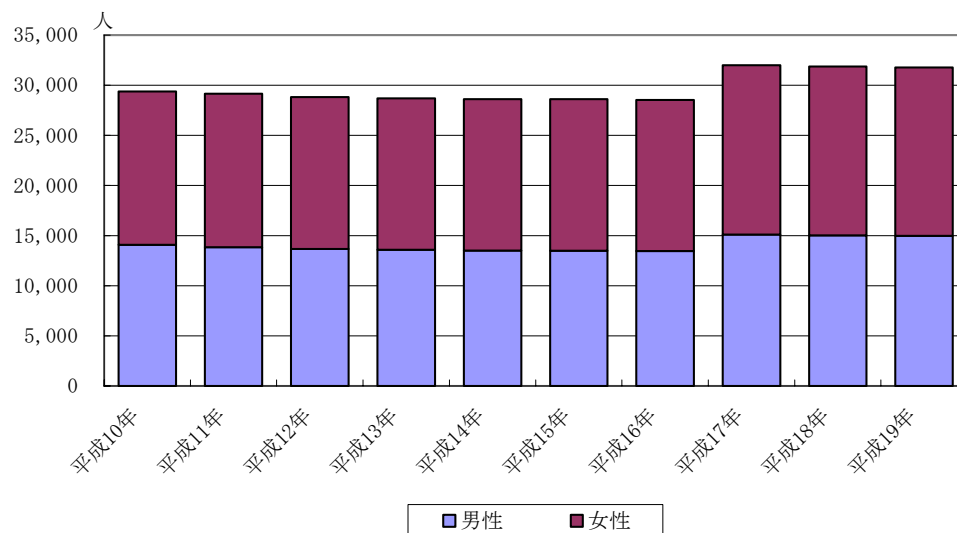
(単位：人)

	男 性	女 性	総 計
平成10年	14,069	15,308	29,377
平成11年	13,856	15,294	29,150
平成12年	13,656	15,167	28,823
平成13年	13,585	15,115	28,700
平成14年	13,507	15,113	28,620
平成15年	13,499	15,104	28,603
平成16年	13,450	15,079	28,529
平成17年	15,102	16,896	31,998
平成18年	15,014	16,850	31,864
平成19年	14,966	16,796	31,762

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移

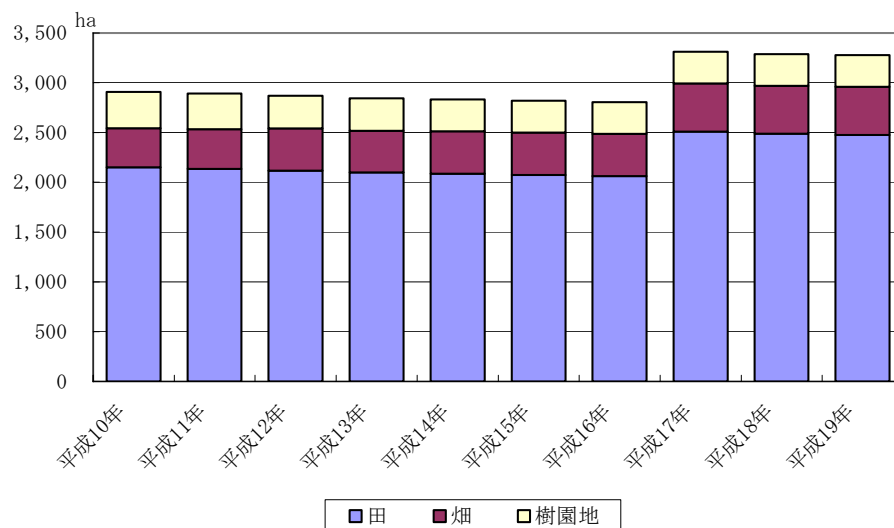
(単位：ha)

	田	畑	樹園地	合 計
平成10年	2,151.5	392.3	363.4	2,907.2
平成11年	2,135.3	399.2	358.7	2,893.2
平成12年	2,117.2	424.1	327.2	2,868.5
平成13年	2,098.0	419.2	325.2	2,842.4
平成14年	2,087.0	424.3	322.6	2,833.9
平成15年	2,073.2	425.3	321.5	2,820.0
平成16年	2,061.7	424.7	318.9	2,805.3
平成17年	2,510.0	483.6	318.3	3,311.9
平成18年	2,488.5	480.3	320.2	3,289.0
平成19年	2,477.4	482.8	318.7	3,278.9

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

◆ 主要農作物

京都市では、都への献上等の形で持ち込まれた多種多様な野菜が古くから栽培され、その長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。

京都市は、京都府内最大の野菜生産地であり、

府内の野菜生産額の 40.7%を占めている。

平成 19 年京都府統計書によると、京都市で生産される農作物のうち、生産額が一番多いのは野菜の 101 億 1 千万円で、耕種作物全体の 82.3%を占めており、次いで主食である米の 14 億 3 千万円で、11.6%を占めている〔表Ⅱ－1－2－4〕。

表Ⅱ－1－2－4 農業（耕種作物）産出額

（単位：京都府 億円，市郡 千万円）

平成 18 年	米	麦 類	雑穀・豆類	いも類	野 菜	果 実	花 き	工 芸 農 作 物	種 苗・ 木 本・ そ の 他	耕 種 作 物 合 計
京 都 府	191	0	10	9	248	19	17	46	11	552
京 都 市	143	－	1	14	1,011	27	29	0	2	1,228
福 知 山 市	202	1	19	7	86	16	1	4	2	337
舞 鶴 市	77	－	4	4	72	5	3	3	2	171
綾 部 市	163	1	9	4	39	7	0	8	1	231
宇 治 市	27	－	－	1	152	1	8	31	1	221
宮 津 市	45	－	2	2	45	4	9	0	3	110
亀 岡 市	213	2	3	5	86	2	10	0	－	320
城 陽 市	24	－	0	6	23	20	25	23	1	122
向 日 市	8	－	－	1	43	0	15	－	2	69
長 岡 京 市	9	－	0	1	61	0	5	－	－	76
八 幡 市	34	－	0	1	96	4	7	15	0	156
京 田 辺 市	51	－	1	2	82	1	9	25	1	172
京 丹 後 市	331	－	32	17	172	74	7	20	25	677
南 丹 市	184	1	9	5	83	3	5	0	0	292
乙 訓 郡	2	－	－	0	5	－	4	－	－	11
久 世 郡	30	X	－	X	155	1	20	1	57	263
綴 喜 郡	25	X	0	X	24	6	X	54	X	115
相 楽 郡	137	－	1	X	163	X	X	281	8	626
船 井 郡	101	－	15	3	35	5	0	0	4	164
与 謝 郡	100	－	5	5	49	1	0	0	2	162

資料：京都府「平成19年京都府統計書」

注：「0」は単位未満，「－」は該当数値なし又は皆無，「X」は数値が秘匿されているものを表す。

◆ 代表的な京の伝統野菜

【賀茂なす】

貞享元年（1684 年）の文献に記載があり、古くは現在の左京区吉田田中地区で栽培されていたが、明治 45 年に北区上賀茂西賀茂及びその付近で、大型なす特産品種として栽培されるようになった。起源については、明らかでない。

【聖護院だいこん】

文政年間（1816 年～1830 年）に、現在の左京区聖護院に住む農家が尾張の国から黒谷の金戒光明寺に奉納された大根を譲り受けて栽培し、採種を続けるうちに生まれた短形のものが土地に合い、品質の良い聖護院だいこんになったようである。

【堀川ごぼう】

聚楽第の堀跡へ捨てられたゴミの中にあつたごぼうが越年し、大きく育ったことから越年ごぼう（堀川ごぼう）の栽培が始められたと言われており、この独特の栽培方法は、400 年以上の歴史を有する。

【九条ねぎ】

現在の伏見区深草の地で、和銅 4 年（711 年）に稲荷神社が建立された時に栽培が始まったとされ、歴史は古い。承和年代（834 年～847 年）には既に、九条で栽培されていたようである。

【みず菜】

京都で栽培されてきた野菜の中で、長い栽培の歴史を持つものの一つで、和名抄（935 年ごろ）に「みずな」の名が始めて記載されている。更に、天和 3 年（1683 年）に供物として用いたことが、また、貞享 3 年（1686 年）に東寺九条周辺で栽培されていた記載がある。

【京せり】

承和 5 年（838 年）の文献に、せりの栽培が記載されており、湧水がある低湿地を利用して、広く栽培された。現在のような湧水栽培が行われたのは、約 300 年前といわれている。

(3) 林 業

◆ 林業の状況

京都市の森林面積は、平成 20 年 3 月現在で 61,018ha となっており、京都市総面積の 73.7%を占めている。

市内における森林を経営形態別に見ると、個人が 77.1%で最も多く、次いで会社の 5.7%、慣行共有(民法上の入会権、地方自治法上の旧慣使用权

によって使用収益している山林などを保有する集団の総称)の 4.6%と続き、私有林が 95%近くを占めている〔表Ⅱ-1-3-1、図Ⅱ-1-3-1〕。

所有規模別では、1ha 以上の山林を所有する林家戸数は、2,160 戸となっている。しかし、比較的経営が成り立つとされる 20ha 以上の山林を所有する林家は、264 戸(全体の 12.2%)にすぎない〔表Ⅱ-1-3-2〕。

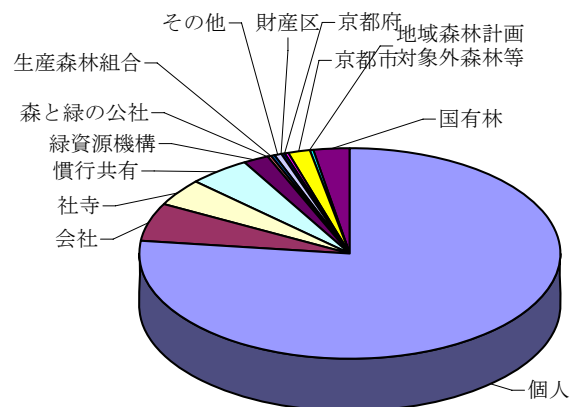
表Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積

(単位：ha)

私有林	個人	47,030.51
	会社	3,467.82
	社寺	2,568.34
	慣行共有	2,797.85
	緑資源機構	1,214.41
	森と緑の公社	179.29
	生産森林組合	280.87
	その他	290.12
公有林	財産区	141.73
	京都府	212.19
	京都市	1,052.54
地域森林計画対象外森林等		170.62
国有林		1,611.22
森林面積合計		61,017.51

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-3-2 所有規模別林家戸数

(単位：戸)

	1～3ha	3～5ha	5～10ha	10～20ha	20～30ha	30～50ha	50ha以上	合計
北区	176	65	62	41	17	18	20	399
上京区	15	3	1	5	2	1	3	30
左京区	216	95	96	67	29	26	22	551
中京区	41	5	3	3	1	2	1	56
東山区	11	4	2					17
下京区	16	5	3	3				27
南区	4	1		1	1	1	2	10
右京区	295	127	124	68	27	31	33	705
伏見区	77	27	9	5	3	4	11	136
山科区	64	12	12	2	3		2	95
西京区	70	37	16	7	1	1	2	134
合計	985	381	328	202	84	84	96	2,160

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

(4) 畜産業

◆ 畜産業の状況

平成19年度京都市農林統計資料によると、平成19年2月現在の京都市の家畜飼養戸数及び頭羽数は、乳用牛が4戸、73頭、肉用牛が3戸、41頭、馬が12戸、153頭、豚が3戸、32頭、山羊が3戸、8頭、緬羊が2戸、4頭、鶏が35戸、17,909羽、みつばちが7戸、210群となっている。

京都市の畜産物の自給率（平成18年）は、肉類が0.1%、牛乳が0.7%、鶏卵が1.0%となっている。畜産物価格の低迷や将来性に対する不安、後継者難等により、年々飼養戸数が減少してきている。

しかも、畜産農家の28.6%が市街化区域内に存在しているため、市民生活における環境問題との調和を図るため、畜産環境の衛生的改善を目的とした巡回指導を行っている。

平成18年の市内における生産額は、牛肉が2,232万円、豚肉が351万円、牛乳が4,537万円、鶏卵が4,170万円、鶏肉が129万円となっている。生産額の総計は、前年に比べ18.4%減少し、豚肉以外の生産額はすべて減少している。その豚肉も、平成17年で前年比98.8%と大幅に減少しており、現状で養豚業を営んでいるのは皆無となっている〔表Ⅱ-1-4-1、図Ⅱ-1-4-1〕。

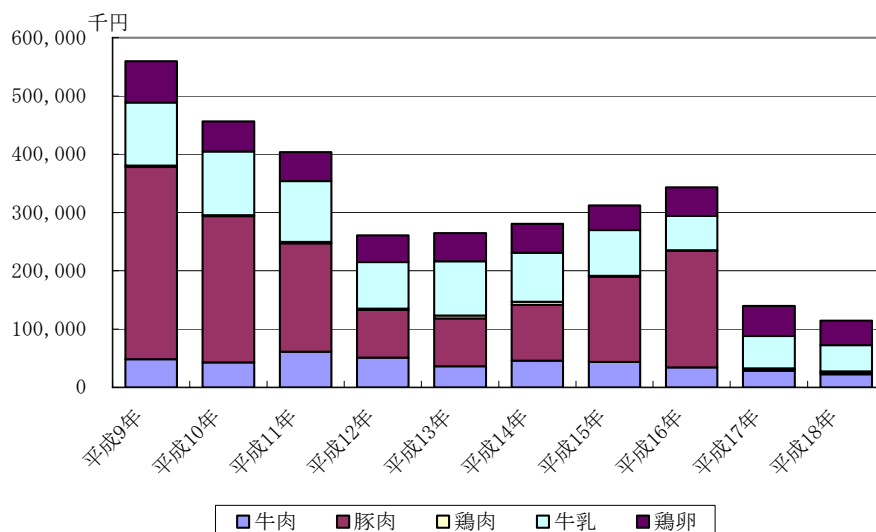
表Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移

（単位：千円）

	牛 肉	豚 肉	鶏 肉	牛 乳	鶏 卵	合 計
平 成 9 年	48,216	329,880	2,599	108,082	70,650	559,427
平 成 10 年	42,769	251,044	1,549	109,331	51,552	456,245
平 成 11 年	61,079	186,152	2,267	104,497	49,737	403,732
平 成 12 年	50,999	81,689	2,464	79,770	45,826	260,748
平 成 13 年	36,223	82,113	4,904	92,961	48,358	264,559
平 成 14 年	45,819	95,510	5,393	84,160	49,735	280,617
平 成 15 年	43,526	146,255	1,630	78,590	42,148	312,149
平 成 16 年	34,482	199,584	1,072	59,048	49,266	343,452
平 成 17 年	28,702	2,341	1,455	55,319	52,166	139,983
平 成 18 年	22,317	3,510	1,289	45,374	41,703	114,184

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

(5) 主要農林産物

◆ 水稻

稲作は、農業振興地域における農業生産の中心となっている。主食である「米」は、近年の状況から、高品質化とともに、より一層の生産性の効率化と低コスト化が求められている〔表Ⅱ-1-5-1、図Ⅱ-1-5-1〕。

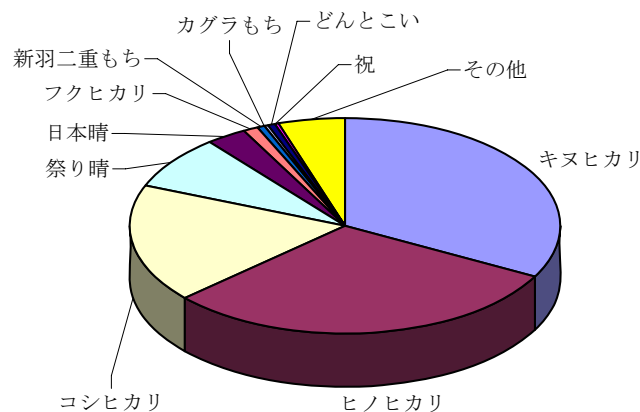
表Ⅱ-1-5-1 水稻 主要品種の作付状況

(単位：ha)

品 種	作 付 面 積
キヌヒカリ	447.3
ヒノヒカリ	416.1
コシヒカリ	241.4
祭り晴	108.8
日本晴	42.0
フクヒカリ	14.2
新羽二重もち	6.9
カグラもち	5.9
どんとこい	5.4
祝	3.6
その他	69.7
合 計	1,361.3

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-1 水稻主要品種の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

◆ 野菜

野菜生産は、市街化区域における農業経営の中心を占めている。長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。市内農地の39%を占める市街化区域内の農地では、主に野菜が生産されており、市民の重要な生鮮食糧供給地となっている〔表Ⅱ-1-5-2、図Ⅱ-1-5-2〕。

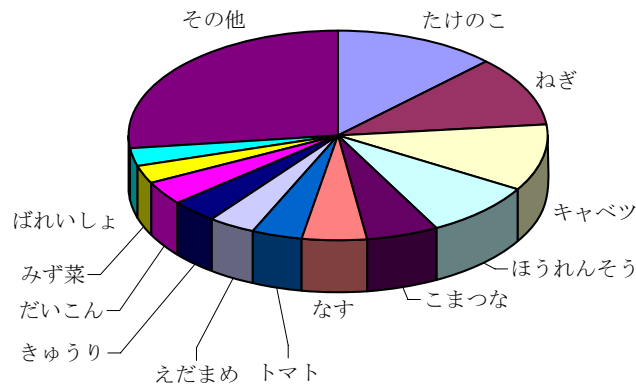
表Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況

(単位：ha)

品 目	作 付 面 積
たけのこ	188.5
ねぎ	160.2
キャベツ	154.4
ほうれんそう	128.8
こまつな	82.6
なす	76.1
トマト	58.2
えだまめ	57.0
きゅうり	53.8
だいこん	52.9
みず菜	42.0
ばれいしょ	41.0
その他	403.9
合 計	1,499.5

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

◆ 花き

京都市は、生け花の発祥地として古くから花の文化の中心地であり、市民の花きに対する関心は非常に高いものがある。生産についても古い歴史を持っているが、生産量は需要を大きく下回っている。

主な産地と品目は、越畑のオミナエシ等盆花、大原野、向島、静原の花壇苗、桃山の枝物などである〔表Ⅱ-1-5-3、図Ⅱ-1-5-3〕。

表Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況

品 目		(単位：ha)
作 付 面 積		
切 花 類		856
枝 物 類		92
鉢 物 類 及 び 花 壇 用 苗 物		1,220
花 木 類		206
合 計		2,374

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

◆ 果樹

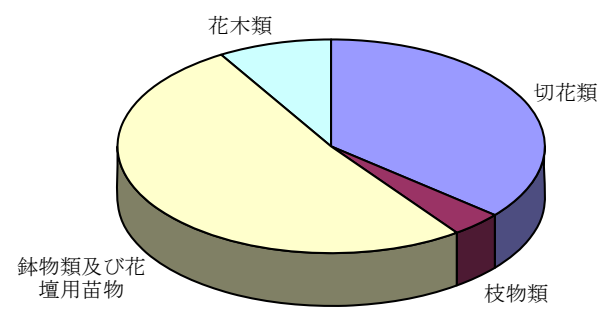
果樹生産は、かき、ぶどう、ゆずが中心で、市場出荷は少なく、主に直売、観光農業として経営が行われている〔表Ⅱ-1-5-4、図Ⅱ-1-5-4〕。

表Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況

品 目		(単位：ha)
栽 培 面 積		
か	き	23.5
ぶ	ど	16.8
ゆ	ず	10.7
く	り	4.3
う	め	2.3
い	ち	1.0
も	も	0.9
キウイフルーツ		0.5
そ の 他		0.7
合 計		60.7

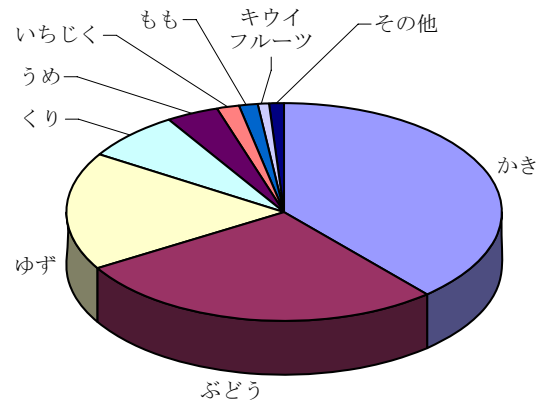
資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

◆ 木材

京都市では、磨丸太用のスギ、柱や桁等の原木となる一般用材用のスギ、ヒノキ、マツ、そして、家具材やパルプ材等となる広葉樹と、使用目的により様々な素材が生産されている〔表Ⅱ-1-5-5、図Ⅱ-1-5-5〕。

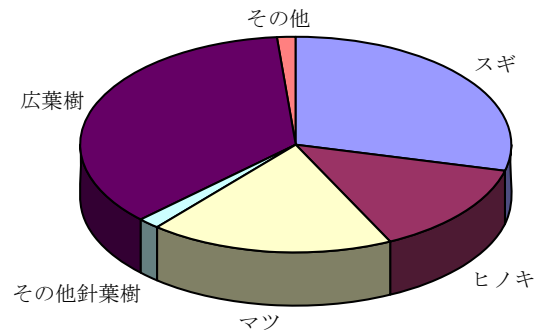
表Ⅱ-1-5-5 林地・樹種別面積の状況（民有林）

（単位：ha）

樹 種 別		面 積
針葉樹	スギ	17,141.03
	ヒノキ	8,246.37
	マツ	10,873.58
	その他	954.25
	計	37,215.23
広葉樹		21,126.32
その他		894.40
合 計		59,235.95

資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-5 林地・樹種面積の状況



資料：京都市産業観光局「平成19年度京都市農林統計資料」